

Live Symposium

医療連携



奮闘する 地域連携室！

—これから求められる地域連携室の姿とは—

日時 2016年10月24日（月） 18:00～19:00

会場 公立置賜総合病院 研修棟1階 研修室1

地域における切れ目のない医療の提供に際し、医療機能の分化・連携がたいへん重要であることはご承知の通りです。

院内においては、今回の診療報酬改定でも示されたように病院と地域との途切れのない連携が重要視され、また地域においては、医療と介護の連携推進において病院の連携実務者への期待も大きく叫ばれております。

このように、大きく変わる医療制度変遷の中、地域連携室の役割はどのように変化してきているのでしょうか。

今回のテーマは、地域連携室の重要性についてです。

お二人の演者から院内・院外における地域連携室の活動についての奮闘ぶりを本音で語っていただき、これからの地域連携室のあるべき姿について考えてみたいと思います。

《話題提供》 18:00～18:10

「連携室のさらなるステージとは」

済生会新潟第二病院 地域連携福祉センター 斎川 克之 氏

《講演Ⅰ》 18:10～18:30

「とびだせ！ 連携室！」

岩手県立宮古病院 地域医療福祉連携室 湯澤 克 氏

《講演Ⅱ》 18:30～18:50

「病院と地域をつなぐ連携室」


市立岸和田市民病院 地域医療センター 加藤 裕子 氏

《ディスカッション》 18:50～19:00

「地域連携室のこれから」

当日は、ご施設名、ご芳名のご記帳をお願い申し上げます。

ご記帳いただいたご施設名、ご芳名は医薬品及び医学薬学に関する情報提供のために利用させていただくことがございます。何卒、ご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

主催  第一三共株式会社

SUMMARY

【講演要旨】

《話題提供》

「連携室のさらなるステージとは」

全国で多くの連携室が開設して早15年。

その間、地域医療を取り巻く医療政策は大きく変遷してきました。

地域において病院がその役割を担い存続していくために連携室は何ができるか、また地域とどう関わっていくべきなのか。その可能性をみなさんと共に考えていきたいと思えます。

《講演Ⅰ》

「とびだせ！連携室！」

連携室は病診連携、退院支援、相談などの業務を行い、地域の「声」が直接聞こえる立ち位置にあります。

病院が地域に求められる機能を十分に発揮するためには、その声を病院に活かすことが重要です。

連携室が地域にとびだしていき地域の声を聞いてくる、同時に連携室から院内の他部門にとびだして、声を届けていく。

今求められている「とびだす連携室」の姿を、報告者の実践を通して考えます。

《講演Ⅱ》

「病院と地域をつなぐ連携室」

病気になっても、患者ができるだけ住み慣れた場所に戻って生活できるようにするためには、

入院前から退院後を通して地域、外来、病棟が連携しながらサポートすることが必要となります。

退院支援看護師はどのように地域と病院、病棟と外来をつないでいけばよいのか、

現在までの取り組みと連携室の今後のあり方について考えてみたいと思えます。